

【鹿児島】外傷サーベイランス委員会開催

12月2日、鹿児島市において外傷サーベイランス委員会が開催されました。

当日は、年末の忙しい時期ということもあり、参加された委員はいつもよりやや少なかったのですが、専門家による現地視察の後の初めて会議ということもあり、振り返りとともに今後の進め方を協議する貴重な機会となりました。

まず、現地視察の結果と評価指標の設定について報告がありました。今回の現地視察の際には、評価指標の設定よりも、地域安全診断の結果からみえてきた課題とマッチしていることに焦点をあてて、各取組みを進めるようにアドバイス差し上げてきました。現地視察を終えた今からは、取組みの成果をいかに確認するか、その方法について議論を進めることとなります。



そのために、今回は、もっとも活用されることになる救急搬送（一般負傷、交通事故、自損等）のデータを分析概要も提示されました。鹿児島市は、消防が各対策委員会のニーズなどを基にデータの分析をおこなっています。今回は、その方法や分析の進捗状況、分析結果からの気づき等について報告されました。

鹿児島市ほどの大規模自治体では、外的要因による負傷等の事例に絞っても発生件数は非常に多いのですが、サーベイランス委員会の委員である鹿児島市消防長からは、「日々記録している救急データを分析することで、消防にとっても有益な情報を得て、防火活動や様々な情報発信の場で実情を踏まえた指導等が可能になる」「対策委員会等で、救急搬送データから欲しい情報があれば、分析が可能か確認するので知らせてほしい」と心強いコメントをいただきました。

【十和田市】再認証に向け現地審査行われる

12月4-5日の2日間、十和田市において再認証に向けた現地審査が実施されました。今回の審査員は、チョ・ジュンピル氏（韓国）とパイル氏（台湾）でした。加えて、SC支援の参考にしたいと希望された台湾のチェン・イェンフェイ氏が同席されました。審査員とオブザーバーは、前日に羽田経由で十和田に到着し、小山田市長へ表敬訪問を行っ

たあと、SC担当から簡単な審査スケジュールの説明を受けました。

4日からの本審査では、まず「外傷サーベイランス」の報告から始まり、「高齢者の安全」の報告が続きました。午後からは自殺予防の活動のひとつとして傾聴サロン・ルピナスや高齢者の安全対策の取組みとして地域いきいきサロンの活動を視察し、その後は「自殺予防」の取組みについて報告を行いました。十和田市では、この数年で自殺者が減っており、協働による多面的な取組みの成果だと評価をいただきました。



続く5日には、「防災対策」「余暇活動」「子どもの安全」「労働安全」「交通事故予防」の報告がありました。「防災対策」では、障がい者に対する取組みが評価されました。また、「余暇活動」とのコラボで進めている外国から観光客とのコミュニケーションのための英語等での救急カードの作成や設



置場所の工夫など、5月の視察の際に両審査員から頂いたアドバイスを反映させた取組みについても評価をいただきました。

併せて、次の5年間に向けて、データの多面的な見方や課題への着眼点、取組みの展開方法などについてアドバイスもいただきました。

全ての報告と視察の後、審査員から現地審査に対する講評がありました。まず、2011年度に軌道修正をしてからの取組みに大きな進歩があった点を高く評価されました。しかし、SCにおいては「継続性」が大切であることから、次回の認証に向けては、今の調子で歩みを継続していくことを期待するとコメントをいただきました。

最後に、市長に対して、以下の3点を約束いただけることを改めて確認し、認証の内定がなされました。

- ① 新体制での対策部会の取組みを見せていただいた。これらの取組みを継続していただきたい。その成果については、（支援センターに提出する）年間報告を通して継続的に知らせていただけると期待する。
- ② 他の自治体（審査などの機会）で、十和田市の方を見かける機会が増えることを期待する。関係者が積極的に参加できるよう環境を作っていただきたい。

③ 将来の十和田を担う若い世代にも SC に関わってもら
うことが重要であることから、SC の延長として ISS を前
向きに検討していただきたい

今回の現地審査では、再認証に向けた課題やその克服
の経緯、関係者のご尽力など、他の自治体にとっても
参考になる点が多々あ
ったのですが、議会の開催
時期と日程が重なったた
め、他の自治体の調整が
難しく、参加がかなわな
かったのが残念でした。



【松原市】年間活動報告書ヒアリング

松原市は、この 11 月で認証 1 周年を迎えました。12 月
18 日、認証月にご提出いただく年間レポートをもとに、SC
ご担当者のみなさんとこれまでの SC 推進状況とこれから
進め方等についてお話をお伺いしました。

今年度に入り、組織の改編をはじめ体制の変更、事務
局や委員会メンバーの変更などがありました。継続と検
証に周知・広報にも力をいれて取組みを進めています。
テンプレート形式の年間レポートでは記載しきれなかつた
工夫や課題、松原市ならではの特徴などについて、3 時
間近くお話をお伺いしました。これらの内容も報告書に反
映させていただいた後には、JISC のウェブサイトにもアッ
プロードし、閲覧できるようになります。

【泉大津市】対策委員会ワークショップ

12 月 18 日、19 日
の 2 日間にわたって、
泉大津市で対策委員
会のワークショップが
開催されました。



今回は、対策委員
会としては 2 回目の顔
合わせとなります。

各対策委員会は 2 つのグループに分
かれて作業用テーブルを囲み、JISC からの説明を受ける
と、早速作業に取り掛かりました。

第一回は、主観的な課題の収集と共有が目標です。委員
の皆さんは、最初こそやや緊張気味でしたが、すぐに
日頃気になっていることについて付箋紙に書き出したメモ
をもとに語りあつていま



ました。

泉大津市の対策委員
会は、学生をはじめ、
若い世代の方も比較
的によく参加しており、
世代を超えたにぎや

かかつ和やかな交流
がみられました。これ
から 3 回ほどワークシ
ョップが続きますが、
今後の展開が楽しみ
です。



【箕輪町】推進協議会を開催

2015 年 1 月 16 日、箕輪町においてセーフコミュニテ
ィ推進協議会が開催されました。地域のキーパーソンで
ある各種団体の長はじめ各区長、小中学校の校長など約
80 名の委員で構成されています。今回の会議は昨年 12
月の町長選挙で当選された白鳥新町長が協議会長に着
任されて初めての会議となります。

会議では、まず 7 月・11 月の上半期のこれまでの各対
策委員会の取組内容や新たな取組みが報告されました。



委員からは、「委員は、報告
を受けるだけでなく、自分た
ちが活発な会議にしてい
くべきだ」と提案がありま
した。また、「実施報告はも
とより結果を聞きたい。」
という意見がだされ、事務
局からは、次回の会議で
は年間の取組みを分析した
結果を報告する旨が伝え
られました。

続いて、事務局から下半期の取組計画について報告
がありました。また、来年度に SC 認証の日に合わせて予
定されている「箕輪町安全安心の日」について報告あり
ました。箕輪町が SC として認証された 5 月 12 日午後
に交流センターなど多くの住民が集まることのできる場
所で記念行事を行う予定であり、今後、具体的な内容を
検討していく旨が説明されました。

最後に、JISC 白石から、他の自治体の取組み事例を
あげて、日本において SC が広がっており、多様な取
組みが展開されていることを紹介させていただきました。そ
のうえで、「再認証」はゴールではなく、安全なまちづく
りの「ツール」であることと、SC の成果を得るためには「振
り返り」が重要であることを説明させていただきました。
特に、指標の数値が悪くな



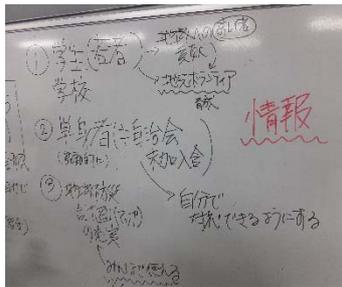
っているから「ダメ」なのではなく、仕組みが機能している
ことが重要であることを強調させていただきました。

【厚木市】再認証審査に向けて準備進む

2015年1月21～23日、厚木市では、再認証に向けて対策委員会の取組みとその評価指標の確認を行いました。各対策委員会事務局より取組みについて説明をいただき、それに対して適切で実施可能な評価方法と指標について、ひとつずつ協議を行いました。

再認証については、認証からの「振返り」が大切になります。取組みによって地域がどう変わってきたのか、などを示すことが期待されています。そのためには、変化を確認するための「評価指標」が重要です。指標の設定は、取組の目標や内容によって変わってきますので、ご担当者から内容をお伺いしながら、時間をかけて協議しました。

また、認証後に立ち上げた防災対策委員会の会議にも同席しました。地域診断を終えて、大きな課題が見えてきたので、方向性を設定しているのですが、委員の立場は様々ですし、検討すべき項目が多いこともあり、やや行きつ戻りつの議論となりましたが、この段階でじっくりと議論した対策委員会は、その後の進みがスムーズになりますので、焦ることなく議論を積み上げていただきたいと思います。



【睦合東中】申請書申請にむけ素案を作成

同日の夕刻から、睦合東中学校において、申請書案をもとに進捗状況等のご報告をいただきながら、申請書の内容を協議していきました。

データから見える課題と取組みがどう対応しているのか、現在、記載されている以外にどのようなデータを利用することができるか、など申請書作成をご担当されている先生方をはじめ、教育委員会も同席して、1頁ごと、2時間以上にわたってお話をお伺いしたり、協議したり・・・という作業を行いました。



【久留米市】安全・安心フェスタ

2015年1月24日、久留米市において、SC認証1周年を記念し、「日本一安全・安心なまちを目指して、地域でできることから始めよう」というキャッチフレーズのもとセーフコミュニティフェスタが開催されました。ご担当者は、参加者が少なかったら・・・とご心配されていましたが、

実際には、会場となったホールは多くの住民の方で埋められていました。

第一部では、3本の講演がありました。まず、最初にJISC白石が「セーフコミュニティの輪を広げよう」というテーマで、セーフコミュニティというのは、難しいものではなく、だれでも今日から取り組むことができる安全なまちづくりの「ツール」であることを説明しました。

また、そのあとは、上津校区防犯協会による劇が披露されました。主役の「ゴリエ」ちゃんの名（迷？）演技に会場は大きな笑いが絶えませんでした。



続いて、福岡県司法書士会や西国分校区防災士会も、それぞれ「生活・法律・こころの相談会」「西国分校区防災力向上の取組み」などSCに関わる取組をご紹介します。お昼をはさんだ第二部では、「子ども理解を深めるための連続講座」が開催され、児童虐待に関する講演が行われました。

また、同じ建物内にある体育館では、SC対策委員会をはじめとする安全に関する体験ブースが設置され、安全なまちづくりに関する啓発ポスターが掲示されるとともに、高齢者安全や交通安全などの体験コーナーが設置されていました。参加者のみなさんは、交通安全ブースで反射神経のテストをしたり、高齢者の転倒予防体操を体験したりしながら、安全について学びました。



【甲賀市・北本市】対策委員会の交流

2015年1月27日、甲賀市において対策委員会合同研修会が開催されました。当日は、北本市のSCご担当者や自殺対策委員会と交通安全対策委員会の各代表の3名が招待され、さる11月に開催された北本市での現地視察のご報告を基に、これまでの取組みについてご報告されました。

今までも、行政の担当者単位でのコミュニティ同士の交流は活発でしたが、住民レベルでの交流は交通費の問題などもあり課題となっていました。しかし、今回は、行政だけでなく、北本市の市民の方も来られたので、甲賀市の対策委員会のみなさんにとっては、自分たちと同じ立場の方たちがどう取組んでおられるのか、その生の声を

聴くことができました。北本市の対策委員会代表のお二人は、甲賀市のことも事前によく調べておられ、北本市と比較しながら取組みを紹介されたので、甲賀市の方も分かりやすかったようです。



ご報告の後は、質疑応答で、甲賀市側から絶えることなく質問がでましたが、北本市の委員も想定質問をご用意されていて、次々と答えていました。

今回、北本の取組みを聞いて、「自分たちはここまでできないんじゃないか」と思った方もおられたそうですが、北本市は何も特別なわけでもなく、同じように迷いながら進んできたことを知り、甲賀市の方にも大きな励みとなったようです。



【亀岡市】セーフコミュニティフォーラム 関西セッション

2015年1月31日、亀岡市においてSCフォーラム・関西セッションが開催されました。

当日は、まず一部では、「うさぎのママパトロール」の安全インストラクターである武田信彦さんから「安全」についてわかりやすく教えていただきました。その後、約140人の参加者による大規模なワークショップが開催され、自分の身を守る方法、地域の安全パトロールをする際のポイントなど体を使って学びました。参加者は、最初はややぎこちない雰囲気でしたが、体を動かすなかで、とりの方たちともすぐに打ち解けることができ、ワイワイと楽しく学ぶことができました。



お昼をはさんで第二部では、関西

でSCに取り組んでいる亀岡市、松原市、甲賀市、泉大津市の対策委員会メンバーによるワークショップを行いました。交通安全、防災対策、高齢者安全などのテーマごとに各コミュニティの代表がテーブルにつき、自分たちの取組みを紹介し、現在抱えている課題などを共有しました。

日頃から積極的に活動に取り組まれている方たちですから、初めて会う方たちとのディスカッションにもかかわらず、どのテーブルでも会話が弾み、時間が足りないほどでした。また、対策委員会のテーブルの横では、各自治

体の対策委員会担当の職員がテーマごとに集まって、事務局としての課題や不安などを話あっていました。

最後は、それぞれのテーブルで議論した内容を報告しました。どのコミュニティも、うまくいっている部分もあるけれど、課題もある。そのなかで自分たちの地域にあった方法で背伸びしすぎることなく継続して続けることが大切であることを共有できたことが大きな成果となりました。



参加者からは、他の自治体がどのような取組みをしているのかが分かって参考になった。来年からも、是非定期的の実施してほしいという声が挙げられました。



【JISC】第一回セーフコミュニティ功労賞

この度、JICS では、SCを通して地域の安全向上に貢献されてきた個人及び団体に対して功労賞を差し上げる運びとなりました。

第一回は、亀岡市の井内邦典さん(個人の部)、箕輪町北小河内地区KSC(団体)に決定しました。井内さんは、亀岡市がSCに着手した2006年からSCをけん引されるとともに、近年では様々な機会を通してSCにおける経験をお伝えくださり、地域の可能性をお伝えくださっています。また、現在はISSにも取り組んでおられます。

北小河内地区KSCのみなさんについては、自治会・町内会レベルでのS+PDCAサイクルを構築・実践し、そのご経験を町内外に積極的にご紹介くださり、普及に貢献くださっています。

井内さんについては、1月31日に亀岡市で実施されたSCフォーラム・関西セッションで表彰させていただきました。箕輪町北小河内KSCの皆さんについては、箕輪町が5月に予定しているSC行事の際に表彰させていただく予定です。

